

# 令和元年度 政策づくり塾 活動報告会・修了式

今年度最後の活動となります第10回(2月26日)政策づくり塾では、1年間取り組んできた地域公共活動について塾生が報告し、その後、修了式を行いました。

## 地域公共活動報告会

各グループから地域公共活動について報告が行われた後、質疑応答・意見交換が行われました。

### 1. 舞鶴ミライ会議

#### (1)実施内容

##### ①概要

実施日:令和元年12月15日(日)

場所:コワーキングスペース(赤れんが3号棟2階)

目的:様々な年齢層と交流を深めるとともに、自分が住む地域の現状を考え、理想のまちにするにはどうすればよいかを考える場をつくる。

内容:はじめに参加者が4つのグループに分かれ、アイスブレイクとして、舞鶴市を地区ごとに区切った白地図に地区名を正しい場所に張るゲームを実施。その後、舞鶴市の将来について意見交換を行いその内容を発表。

##### ②参加者の感想

(学生)自分が知らない舞鶴市の姿を知ることができたので良かった、多世代で話すことができたのが楽しかった。

(社会人)普段関わることができない世代と意見交換を行うことができたのが良かった。企画の運営側でも参加してみたいと感じた。

##### ③まとめ

近隣市でも同様の取組を継続して行っているところがあり、舞鶴でも継続して行うことができればよいと考えている。

#### (2)主な質問・意見

- 舞鶴の魅力子どもたちに伝え、知ってもらうことで、舞鶴への愛着を感じるようになると思う。その魅力を伝えるためにも、多世代交流は重要なものであり、「人」と「人」の交流拠点として、コワーキングスペースの活用を図っている。今後も「人」と「人」の交流をつくるようなイベントを実施してほしい。



▲報告の様子



▲イベント当日の様子

### 2. ワク!ドキ!スポーツチャレンジ

#### (1)実施内容

##### ①概要

実施日:令和2年1月26日(日)

場所:東体育館

目的:市内で出来る多様なスポーツを知ってもらい、運動を始めるきっかけを提供する。

内容:45名の小学1~6年生が集まり、バレー・バドミントン・テニスの3種目を体験する。(応募者は76名)

##### ②参加者の感想

(小学生)今回体験した以外の競技も体験してみたい。

(保護者)今後同様のイベントがあれば参加料を支払ってでも参加させたい。クラブ活動を定める良い機会になった。

##### ③まとめ

スポーツは一回限りのイベントで競技者を増やすことは難しく、継続して定着させることが大切である。様々な協議団体等に協力を仰ぎ、継続的に実施できるよう、検討することが必要になる。

#### (2)主な質問・意見

- スポーツ競技者を増やすため、子どもたちを対象とした指導を行っている団体もある。今回改めて実施結果やアンケート結果を聞き、舞鶴市内でもスポーツ需要があることが分かった。また、費用を負担しても子どもにスポーツ体験をさせてみたいという方が多いというデータも参考になった。スポーツ協会やその他の団体、行政と一緒にスポーツの促進につなげていきたい。
- 過去に塾活動に参加したことで、地域での活動に興味を持ち、また地域の公共活動にも関わりたいという思いを持つようになった。8期生の塾生の皆さんもぜひ、1年間の活動をきっかけにまちづくりについて関心を持ち続けてもらいたい。



▲イベント当日の様子

## 総括・講評

## (1) 多々見市長

- 舞鶴市では、人口減少の抑制のため、様々な取組を行っている。
- 例えば、舞鶴市のように海上自衛隊が所在するまちでは、自衛官の多くが退職後に地元に戻ることから社会減が多い傾向にあるため、これらを抑制するため、退職自衛官を対象として、リカレント教育が受けられる環境の整備を進めている。
- 市内の高等教育機関の協力のもと、退職自衛官が舞鶴で再就職するためのスキルを身につけてもらう場を設定することで、舞鶴への定住を押し進めていきたいと考えている。
- 若い世代に対しては、大学進学後に舞鶴に戻ることを視野に入れてもらえるよう、出前講座を行っている。中学生を対象に、まちの歴史や文化などを伝えることでまちの魅力を知ってもらい、地元への愛着をもってもらうことを目的に実施しているものである。
- まちについて知ることによって魅力を理解できると考えている。今回の舞鶴ミライ会議のような多世代での意見交換会の場を通じて、多くの情報を得ることにつながるの、引き続きこのような取組を行ってほしいと思う。
- 様々な年齢の子どもたちがスポーツを通じて関わることは心身の成長につながると思う。舞鶴市の総合計画の中では、「心豊かに暮らせるまちづくり」として子どものスポーツ機会の充実を図ることを掲げている。ワクワク！スポーツチャレンジのようにスポーツを気軽に体験できる機会をつくることで、スポーツを本格的に始めるきっかけになると思うので、このような取組は継続して実施してほしいと思う。また継続するにあたっては、親子で参加ができる形式の体験会にするなど、更に工夫を加えることができるとも思った。
- また、体験会でスポーツの楽しさを伝え、その後は良い指導者を見つけることで、レスリングのように、全国大会で優勝するような選手の発掘や各競技の促進につながるものになると感じた。



▲講評の様子

## (2) 窪田塾長

- 参加者の立場に立ち、参加する意味や楽しめる要素が何かを検討した企画内容にすることが大切である。その点、舞鶴ミライ会議は、意見交換会だけでなく、ゲーム要素を取り入れていた点が良かった。
- また、トレンドやタイミングをとらえた企画にすることによって、参加者の関心をえられることにつながる。ワクワクスポーツチャレンジは、今年がオリンピックキヤーであるというタイミングをとらえたイベントであった点が良かった。
- 参加いただいた方にイベントを通じてどのようなことを体験してもらいたいのか、企画側の意図や思いが伝わる企画になっていたと思う。
- どちらのグループも目的をはっきりと持った企画であったのが良かったが、いかに継続させるのか課題。企画を継続させるにあたり、誰が継続するのがよいのか、費用対効果などについて考えていく必要がある。
- 企画への協力者が協力したいと思えるような環境を整えることが大切である。



▲講評の様子

## 修了式

今年度は市民塾生4名、職員塾生4名の計8名の塾生で活動を行ってきました。窪田塾長やOB塾生による地域公共活動の講義や、新聞記者による広報活動の講義を通し、地域公共政策に関する知識を身に着けるとともに、8月からは2つのグループに分かれ、塾生自らが地域公共活動の実践に向け、企画を考え、イベントを実施いたしました。1年間の活動の修了を迎えるにあたり、多々見市長から修了証書の授与が行われ、その後記念撮影が行われました。



▲記念撮影

## 多々見市長あいさつ

- 政策づくり塾も8期目となり、約100名の塾生が修了を迎えた。
- 政策づくり塾は、政策形成能力の向上や異業種交流などを目的としてスタートした活動である。
- 今期の塾活動はこの報告会をもって修了となるが、塾生には今後もまちづくりに関心を持ち続けてほしいと思う。
- 近年、行政に求められる住民サービスが増えている現状があるが、「自助」や地域住民で助け合う「共助」において解決できることも多くあると思う。行政がすべき「公助」が何かを再度考え、地域が一丸となってまちづくりを進めていかなければならない。今後とも窪田塾長にも協力願いたい。